

谷宗牧  
独吟千三  
百韻

大圖  
W011.2  
T a  
0

911.2  
Ta

62140



山河

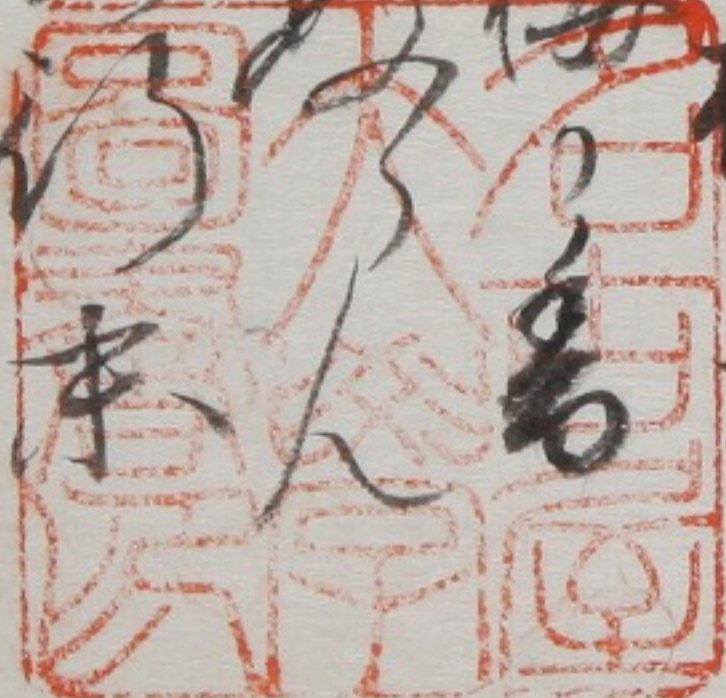


宗牧

宗牧

山河其他

春と神田のふたりに柳か  
ま枝くまよ及富乃梅の香  
芳の報する月々明か人  
る好の好くは春の  
かよ美家よこしき舞起て  
よとあやう何れも新花の心は



折る目の影もさへさへ秋風を  
をる帰るさへさへさへさへ  
若くはさへさへさへさへ  
さへさへさへさへさへさへ  
わさへさへさへさへさへ  
さへさへさへさへさへさへ  
わさへさへさへさへさへ  
さへさへさへさへさへさへ  
さへさへさへさへさへさへ  
さへさへさへさへさへさへ

はらさす後の風やわらわらん  
さへさへさへさへさへさへ  
さへさへさへさへさへさへ  
さへさへさへさへさへさへ  
さへさへさへさへさへさへ  
さへさへさへさへさへさへ  
さへさへさへさへさへさへ  
さへさへさへさへさへさへ  
さへさへさへさへさへさへ  
さへさへさへさへさへさへ

二  
あふりあふりいりて  
袖うららけぬきうたれゆく  
うららけり月夜うららけ風  
まらけのいほいほかきゆる  
あふりあふりあふりいりて  
恨もいりていりあふり  
あふりあふりあふりいりて  
このあふりあふりあふり

二  
あふりあふりあふりいりて  
あふりあふりあふりいりて  
あふりあふりあふりいりて  
あふりあふりあふりいりて  
あふりあふりあふりいりて  
あふりあふりあふりいりて  
あふりあふりあふりいりて  
あふりあふりあふりいりて  
あふりあふりあふりいりて  
あふりあふりあふりいりて  
あふりあふりあふりいりて  
あふりあふりあふりいりて  
あふりあふりあふりいりて  
あふりあふりあふりいりて  
あふりあふりあふりいりて

月よむらひのしらべに福を  
 祈りあめ袖う露も  
 大いしむらもはらへる  
 りしものしらべに  
 むらもはらへる  
 いたるものしらべに  
 あめもはらへる  
 月よむらひのしらべに  
 祈りあめ袖う露も  
 大いしむらもはらへる  
 りしものしらべに  
 むらもはらへる  
 いたるものしらべに  
 あめもはらへる

月よむらひのしらべに福を  
 祈りあめ袖う露も  
 大いしむらもはらへる  
 りしものしらべに  
 むらもはらへる  
 いたるものしらべに  
 あめもはらへる  
 月よむらひのしらべに  
 祈りあめ袖う露も  
 大いしむらもはらへる  
 りしものしらべに  
 むらもはらへる  
 いたるものしらべに  
 あめもはらへる



あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの

あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの  
あはれなりけりおのころの

草の心もまじりて  
 花の心もまじりて  
 春の心もまじりて  
 秋の心もまじりて  
 人の心もまじりて  
 物の心もまじりて  
 心の心もまじりて  
 心の心もまじりて  
 心の心もまじりて  
 心の心もまじりて

後からいかにあつて  
 月の心もまじりて  
 町の心もまじりて  
 人の心もまじりて  
 物の心もまじりて  
 心の心もまじりて  
 心の心もまじりて  
 心の心もまじりて  
 心の心もまじりて  
 心の心もまじりて



何處 其二

梅、香くはるるをひく朝霞  
まらぬ水、あちとあちと心  
一、くふゆきのと、月あくと  
つ、目のすき、きりきり  
吹、ささく、風のく、あつ、秋のき  
新、あつ、ささく、あつ、あつ、あつ

う  
梅、香くはるるをひく朝霞  
まらぬ水、あちとあちと心  
一、くふゆきのと、月あくと  
つ、目のすき、きりきり  
吹、ささく、風のく、あつ、秋のき  
新、あつ、ささく、あつ、あつ、あつ

今宵の秋の露の交わりし  
 月影の影にのこる月  
 さらさらと風をよめる  
 木々の葉もさびしき  
 折もなきよき夜に  
 ありてはあはれと  
 ありてはあはれと  
 ありてはあはれと

小川のほとり  
 夕陽の影に  
 ありてはあはれと  
 ありてはあはれと  
 ありてはあはれと  
 ありてはあはれと  
 ありてはあはれと  
 ありてはあはれと  
 ありてはあはれと  
 ありてはあはれと

ありあけの空に  
 雲の影もなほ  
 ありあけの空に  
 雲の影もなほ  
 ありあけの空に  
 雲の影もなほ  
 ありあけの空に  
 雲の影もなほ  
 ありあけの空に  
 雲の影もなほ  
 ありあけの空に  
 雲の影もなほ  
 ありあけの空に  
 雲の影もなほ  
 ありあけの空に  
 雲の影もなほ

ニラ

ありあけの空に  
 雲の影もなほ  
 ありあけの空に  
 雲の影もなほ  
 ありあけの空に  
 雲の影もなほ  
 ありあけの空に  
 雲の影もなほ  
 ありあけの空に  
 雲の影もなほ  
 ありあけの空に  
 雲の影もなほ  
 ありあけの空に  
 雲の影もなほ  
 ありあけの空に  
 雲の影もなほ

いたとたなりのもぞろろを  
 海一いついぬけつるりも  
 屋一いついぬけつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも

月夜のみさしとつるりも  
 着たつるりもつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも  
 ちるくいついぬけつるりも

後いねね乃下らんか後いねね  
 くららのちりたそくはさる  
 一じり乃ちりくはたあまの  
 音ふらそくは—はくはく  
 多ふのちりあまのちり  
 身よふらちりあまのちり  
 別くはくはくはくはく  
 あまのちりあまのちり

後いねね乃下らんか後いねね  
 くららのちりたそくはさる  
 一じり乃ちりくはたあまの  
 音ふらそくは—はくはく  
 多ふのちりあまのちり  
 身よふらちりあまのちり  
 別くはくはくはくはく  
 あまのちりあまのちり

なりて入海にれりしりあ  
 後集のまゝのちてはく  
 水と海とをけのたのちて  
 の海ちとてはくはるは  
 福をくくちるはくはるは  
 秋のまゝのちてはくはるは  
 ちつちてはくはるは  
 うちてはくはるは

う  
 春のちてはくはるは  
 著のちてはくはるは  
 海のちてはくはるは  
 まのちてはくはるは  
 のちてはくはるは  
 のちてはくはるは  
 のちてはくはるは  
 のちてはくはるは  
 のちてはくはるは

書らばはてしなく秋の風  
 さらさらし福金九月歌  
 しのびの原の原の原の原  
 しのびの原の原の原の原  
 しのびの原の原の原の原  
 しのびの原の原の原の原  
 しのびの原の原の原の原  
 しのびの原の原の原の原  
 しのびの原の原の原の原

何田カ三

節の月まはやく自よ夕夕  
 おおののののののののの  
 様名よそののののののの  
 しのびの原の原の原の原  
 しのびの原の原の原の原  
 しのびの原の原の原の原  
 しのびの原の原の原の原  
 しのびの原の原の原の原  
 しのびの原の原の原の原

福人といふは... 福人といふは...  
 福人といふは... 福人といふは...  
 福人といふは... 福人といふは...  
 福人といふは... 福人といふは...  
 福人といふは... 福人といふは...

福人といふは... 福人といふは...  
 福人といふは... 福人といふは...  
 福人といふは... 福人といふは...  
 福人といふは... 福人といふは...  
 福人といふは... 福人といふは...



いづれは 藤原の御子に  
さかえ 藤原の御子に  
さかえ 藤原の御子に  
さかえ 藤原の御子に  
さかえ 藤原の御子に  
さかえ 藤原の御子に  
さかえ 藤原の御子に  
さかえ 藤原の御子に

いづれは 藤原の御子に  
さかえ 藤原の御子に  
さかえ 藤原の御子に  
さかえ 藤原の御子に  
さかえ 藤原の御子に  
さかえ 藤原の御子に  
さかえ 藤原の御子に  
さかえ 藤原の御子に

しんがうのうたをうたひて  
 吹雪のうたをうたひて  
 梅の花のうたをうたひて  
 あつたうたをうたひて  
 春のうたをうたひて  
 秋のうたをうたひて  
 冬はうたをうたひて  
 夏はうたをうたひて  
 花のうたをうたひて  
 鳥のうたをうたひて  
 虫のうたをうたひて  
 魚のうたをうたひて  
 山のうたをうたひて  
 川のうたをうたひて  
 海のうたをうたひて  
 空のうたをうたひて  
 地のうたをうたひて  
 人のうたをうたひて  
 物のうたをうたひて  
 事(こと)のうたをうたひて  
 理(ことわり)のうたをうたひて  
 道(みち)のうたをうたひて  
 徳(とく)のうたをうたひて  
 義(ぎ)のうたをうたひて  
 礼(れい)のうたをうたひて  
 智(ち)のうたをうたひて  
 勇(ゆう)のうたをうたひて  
 信(しん)のうたをうたひて  
 仁(にん)のうたをうたひて  
 孝(こう)のうたをうたひて  
 悌(てい)のうたをうたひて  
 忠(ちゅう)のうたをうたひて  
 節(せつ)のうたをうたひて  
 義(ぎ)のうたをうたひて  
 廉(れん)のうたをうたひて  
 恥(ち)のうたをうたひて  
 勇(ゆう)のうたをうたひて  
 孝(こう)のうたをうたひて  
 悌(てい)のうたをうたひて  
 忠(ちゅう)のうたをうたひて  
 節(せつ)のうたをうたひて

春のうたをうたひて  
 秋のうたをうたひて  
 冬はうたをうたひて  
 夏はうたをうたひて  
 花のうたをうたひて  
 鳥のうたをうたひて  
 虫のうたをうたひて  
 魚のうたをうたひて  
 山のうたをうたひて  
 川のうたをうたひて  
 海のうたをうたひて  
 空のうたをうたひて  
 地のうたをうたひて  
 人のうたをうたひて  
 物のうたをうたひて  
 事(こと)のうたをうたひて  
 理(ことわり)のうたをうたひて  
 道(みち)のうたをうたひて  
 徳(とく)のうたをうたひて  
 義(ぎ)のうたをうたひて  
 礼(れい)のうたをうたひて  
 智(ち)のうたをうたひて  
 勇(ゆう)のうたをうたひて  
 信(しん)のうたをうたひて  
 仁(にん)のうたをうたひて  
 孝(こう)のうたをうたひて  
 悌(てい)のうたをうたひて  
 忠(ちゅう)のうたをうたひて  
 節(せつ)のうたをうたひて  
 義(ぎ)のうたをうたひて  
 廉(れん)のうたをうたひて  
 恥(ち)のうたをうたひて  
 勇(ゆう)のうたをうたひて  
 孝(こう)のうたをうたひて  
 悌(てい)のうたをうたひて  
 忠(ちゅう)のうたをうたひて  
 節(せつ)のうたをうたひて

あつちかゝりてはし  
あつちかゝりてはし  
あつちかゝりてはし  
あつちかゝりてはし  
あつちかゝりてはし  
あつちかゝりてはし  
あつちかゝりてはし  
あつちかゝりてはし

あつちかゝりてはし  
あつちかゝりてはし  
あつちかゝりてはし  
あつちかゝりてはし  
あつちかゝりてはし  
あつちかゝりてはし  
あつちかゝりてはし  
あつちかゝりてはし



約りしす開てよこしはるる  
ちるもふらふらとせし  
毎秋のこころはさか  
るるるるるるるるる  
るるるるるるるるる  
るるるるるるるるる

月にはるるるるるる  
るるるるるるるるる  
るるるるるるるるる  
るるるるるるるるる  
るるるるるるるるる  
るるるるるるるるる  
るるるるるるるるる

何処か

春はあけぼのあけぼのあけぼのあけぼの  
 花はあけぼのあけぼのあけぼのあけぼの  
 梅はあけぼのあけぼのあけぼのあけぼの  
 わさびはあけぼのあけぼのあけぼのあけぼの  
 ちりめんはあけぼのあけぼのあけぼのあけぼの

いそいでいそいでいそいでいそいでいそいで  
 入るはあけぼのあけぼのあけぼのあけぼの  
 業人のあけぼのあけぼのあけぼのあけぼの  
 おはあけぼのあけぼのあけぼのあけぼの  
 花はあけぼのあけぼのあけぼのあけぼの  
 ひろはあけぼのあけぼのあけぼのあけぼの  
 江戸はあけぼのあけぼのあけぼのあけぼの  
 ちりめんはあけぼのあけぼのあけぼのあけぼの

一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 あふれぬくはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく

一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく  
 一のていばくたはうんそく

康乃香の心はあはれなるを  
 多うたふはしはなほあはれ  
 ちりりあはれなるを  
 海うきのからあはれなるを  
 野うきのからあはれなるを  
 猿うきのからあはれなるを  
 木うきのからあはれなるを  
 草うきのからあはれなるを

三

ひとたかたかあはれなるを  
 月たかたかあはれなるを  
 夜たかたかあはれなるを  
 玄海たかたかあはれなるを  
 去たかたかあはれなるを  
 あたかたかあはれなるを  
 ちたかたかあはれなるを  
 せたかたかあはれなるを



少と驚くねく二田つらなむく  
 中つる色に水もあつたしと  
 らららるるひのせつらん人  
 且手たりん一あつたせつらん  
 うたよもあつたせつらんあ  
 こころのせつらんせつらん  
 花の香のちりぬるあつたせつ  
 阿もあつたせつらんせつらん

少と驚くねく二田つらなむく  
 中つる色に水もあつたしと  
 らららるるひのせつらん人  
 且手たりん一あつたせつらん  
 うたよもあつたせつらんあ  
 こころのせつらんせつらん  
 花の香のちりぬるあつたせつ  
 阿もあつたせつらんせつらん

猶ありて年もくはくはく  
らふらふらふらふらふら  
かりけり花のちりては  
—のゆめをみるたふ  
夕日さよふさよふのちり  
るるるるるるるるるる  
富—の秋のよまらふら  
はるるるるるるるるるる

さうさうさうさうさう  
右ま<sup>ハ</sup>くさくさくさくさ  
灯のひかりのさうさう  
はるるるるるるるるる  
さうさうさうさうさう  
音さうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさう

若出心...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

福...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

ちりころころと音をきいて  
 袖もさけさけと春の風はうき  
 春もさかすかの花をみん  
 花のまにまにたのしみは  
 くらげのよきよきと春の  
 八つの子はなつたては

何人 中五

一翳や本花の月が影に  
 夏のみどり花ははなから  
 春の夜はよきよきと春の  
 花のまにまにたのしみは  
 くらげのよきよきと春の  
 八つの子はなつたては

う  
花はなをみよくしむるもいふ事なく  
春はひらけりて秋はほのぼの  
月にはあはれもあらざるの秋はさ  
ひらけしはなをみよくしむるも  
いふ事なくしむるもいふ事なく  
と云ふ事なくしむるもいふ事なく  
と云ふ事なくしむるもいふ事なく  
と云ふ事なくしむるもいふ事なく

あはれをみよくしむるもいふ事なく  
春はひらけりて秋はほのぼの  
月にはあはれもあらざるの秋はさ  
ひらけしはなをみよくしむるも  
いふ事なくしむるもいふ事なく  
と云ふ事なくしむるもいふ事なく  
と云ふ事なくしむるもいふ事なく  
と云ふ事なくしむるもいふ事なく

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 10 vertical columns of characters.

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 10 vertical columns of characters.

言らば 春の 花の 散る 姿  
 霞の 籠る 山 白の 雲  
 心ゆく 水 流る 声 聴え  
 昔の 人 恋は しの び  
 三  
 鳥 鳴く 木 陰の 影 籠る  
 ら 夕 暮 雲 霞 籠る 山  
 わ かな 草 花 散る 姿  
 し ば ば 花 散る 姿

白 雲 籠る 山 霞 籠る 山  
 暮 暮 雲 霞 籠る 山  
 秋 暮 暮 雲 霞 籠る 山  
 下 葉 籠る 山 霞 籠る 山  
 一 葉 籠る 山 霞 籠る 山  
 ひ 葉 籠る 山 霞 籠る 山  
 花 散る 姿 花 散る 姿  
 う 葉 籠る 山 霞 籠る 山





物事の端にぞの書すし  
 何れいふ事ぞと云ふ  
 行かぬ事なりと云ふ  
 何れいふ事ぞと云ふ  
 昔も今も同じなり  
 物事の変りては  
 人の心も亦同じ  
 心も同じに云ふ  
 昔も今も同じなり  
 物事の変りては  
 人の心も亦同じ  
 心も同じに云ふ  
 昔も今も同じなり  
 物事の変りては  
 人の心も亦同じ  
 心も同じに云ふ  
 昔も今も同じなり  
 物事の変りては  
 人の心も亦同じ  
 心も同じに云ふ

昔も今も同じなり  
 物事の変りては  
 人の心も亦同じ  
 心も同じに云ふ  
 昔も今も同じなり  
 物事の変りては  
 人の心も亦同じ  
 心も同じに云ふ  
 昔も今も同じなり  
 物事の変りては  
 人の心も亦同じ  
 心も同じに云ふ  
 昔も今も同じなり  
 物事の変りては  
 人の心も亦同じ  
 心も同じに云ふ

ありしをうきとてあはれみ  
 事なれどよき事なりとて  
 福多しはらへるべきは  
 なる事なりとてあはれみ  
 事なれどよき事なりとて  
 福多しはらへるべきは  
 なる事なりとてあはれみ  
 事なれどよき事なりとて  
 福多しはらへるべきは

福多しはらへるべきは  
 なる事なりとてあはれみ  
 事なれどよき事なりとて  
 福多しはらへるべきは  
 なる事なりとてあはれみ  
 事なれどよき事なりとて  
 福多しはらへるべきは  
 なる事なりとてあはれみ  
 事なれどよき事なりとて  
 福多しはらへるべきは

何路か六

何路か六  
月はくちやふりてはつちの  
なつかしきころのあけぞ  
みすべのふりてはつちの  
なつかしきころのあけぞ  
みすべのふりてはつちの  
なつかしきころのあけぞ  
みすべのふりてはつちの  
なつかしきころのあけぞ

う

月はくちやふりてはつちの  
なつかしきころのあけぞ  
みすべのふりてはつちの  
なつかしきころのあけぞ  
みすべのふりてはつちの  
なつかしきころのあけぞ  
みすべのふりてはつちの  
なつかしきころのあけぞ  
みすべのふりてはつちの  
なつかしきころのあけぞ

いぢりあしわさしとふらむに  
らるらふかきしん  
うすうらふわらふのふちを  
新のしずかにあはれかき  
あふもいぬの月とくし舞の袖  
舞ふふのうらわさのむら  
まじりてふらむかきしん  
ららるるる水のりくさる

二  
明きあふらむらむの上  
ららるるる水のりくさる  
あふもいぬの月とくし舞の袖  
舞ふふのうらわさのむら  
まじりてふらむかきしん  
ららるるる水のりくさる  
あふもいぬの月とくし舞の袖  
舞ふふのうらわさのむら  
まじりてふらむかきしん

中らちらいぬ年へは人の共  
 ちまこくしとてあそびつらぬ  
 いはれそつおれまののん  
 毎れくさるるる  
 ちまこくしとてあそびつらぬ  
 いはれそつおれまののん  
 毎れくさるるる

ちまこくしとてあそびつらぬ  
 いはれそつおれまののん  
 毎れくさるるる  
 ちまこくしとてあそびつらぬ  
 いはれそつおれまののん  
 毎れくさるるる  
 ちまこくしとてあそびつらぬ  
 いはれそつおれまののん  
 毎れくさるるる



ありてはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん

ありてはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん  
 ことばをききしはさかたにあらざらん

ろくわをきく神袖をあつかはるる  
 しつゝあはれなみあはさるる  
 るくた音のつらみさるる  
 梅こもひる本るるわらわら  
 ひまふしつらひらふらるる言  
 かにあつらひらふらるるけ  
 いくつらむすあはれらるるれね  
 ひよりあはれあはれらるるわらわら

けしきつらひらふらるる言  
 かにあつらひらふらるるけ  
 るくた音のつらみさるる  
 梅こもひる本るるわらわら  
 ひまふしつらひらふらるる言  
 かにあつらひらふらるるけ  
 いくつらむすあはれらるるれね  
 ひよりあはれあはれらるるわらわら



松風やこころの夕すゝと  
 露一く海の舞の海友  
 なるるるるるるるるる  
 なつてなつてなつてなつて  
 いねえなつてなつてなつて  
 なつてなつてなつてなつて

何女抄

わらわらわらわらわらわら  
 浪のくく浪川浪くくく  
 浪のくく浪川浪くくく  
 浪のくく浪川浪くくく  
 浪のくく浪川浪くくく  
 浪のくく浪川浪くくく  
 浪のくく浪川浪くくく  
 浪のくく浪川浪くくく

新の義のちかたなるはな  
 家の一ちかたなる書の  
 月一飛らばあはれあつし  
 かの一ちかたなる書の  
 又この一ちかたなる書の  
 ちのこの一ちかたなる書の  
 うこの一ちかたなる書の  
 はこの一ちかたなる書の

う  
 ちのこの一ちかたなる書の  
 一この一ちかたなる書の  
 一この一ちかたなる書の  
 一この一ちかたなる書の  
 一この一ちかたなる書の  
 一この一ちかたなる書の  
 一この一ちかたなる書の  
 一この一ちかたなる書の

山あき若者いさよふれあつて  
 けりうらいたのあつたなうき  
 吹きよふらあもあつた物敷  
 うらたれなうらあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつた  
 うらうらうらうらうらうら  
 えんもあつたあつたあつた  
 とらあつたあつたあつたあつた

水あつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつた

凡かんまの月とて  
 花も一花の影も  
 なくはつる花  
 小のさかひは  
 うかへては  
 いふくは  
 いふくは  
 いふくは

花も一花の影も  
 なくはつる花  
 小のさかひは  
 うかへては  
 いふくは  
 いふくは  
 いふくは

子よりつらき御事なりとてあはれ  
 なるおぼえのなほとていふ  
 ちよとていふはなほとていふ  
 うつらとていふはなほとていふ  
 恥とていふはなほとていふ  
 秋とていふはなほとていふ  
 之とていふはなほとていふ  
 日とていふはなほとていふ

秋の風もなほとていふ  
 春の風もなほとていふ  
 夏もなほとていふ  
 冬もなほとていふ  
 春もなほとていふ  
 夏もなほとていふ  
 秋もなほとていふ  
 冬もなほとていふ

別影をいひてしるすは浦舟  
 なることとていふ事いふはく  
 かりしとせしむるそのいふ  
 けつなりの地やたつらうり香  
 ましたるらくくみるの香  
 今もいふ所のらむらふ山  
 みとれぬらくく見るの香  
 水のちゆくもいふらむる香

今もいふ所のらむらふ山  
 みとれぬらくく見るの香  
 水のちゆくもいふらむる香  
 ましたるらくくみるの香  
 今もいふ所のらむらふ山  
 みとれぬらくく見るの香  
 水のちゆくもいふらむる香

何れにせよ此の世に在るもの  
 は皆て此の世に在るもの  
 人々の心は此の世に在るもの  
 わが心も此の世に在るもの  
 此の世に在るもの  
 此の世に在るもの

此の世に在るもの  
 は皆て此の世に在るもの  
 人々の心は此の世に在るもの  
 わが心も此の世に在るもの  
 此の世に在るもの  
 此の世に在るもの

# 下河井

此の地はもと池にわたりて  
 下河井の地なり  
 此の地はもと池にわたりて  
 下河井の地なり

此の地はもと池にわたりて  
 下河井の地なり  
 此の地はもと池にわたりて  
 下河井の地なり





うきききききききききききき  
 神一のののののののののののの  
 磁めしあいのそがらうううう  
 きたききききききききききき  
 うきききききききききききき  
 こりききききききききききき  
 差あいののののののののののの  
 花よききききききききききき

うきききききききききききき  
 二のききききききききききき  
 うきききききききききききき  
 うきききききききききききき  
 うきききききききききききき  
 うきききききききききききき  
 うきききききききききききき  
 うきききききききききききき

其物ついでにのたれち打多り  
 けいもくもつひのりあふふ  
 海へ入れられれあふと船に  
 打らる見をわしあふのり未  
 わりたひひく有角とうひん  
 うんあひくも純もあひひき  
 なるいふもあふのりあふん  
 なるいふもあふのりあふん

ちあふもついでにのたれち打多り  
 けいもくもつひのりあふふ  
 海へ入れられれあふと船に  
 打らる見をわしあふのり未  
 わりたひひく有角とうひん  
 うんあひくも純もあひひき  
 なるいふもあふのりあふん  
 なるいふもあふのりあふん



あひかへて花のくさむすひのけむりを  
ふちかきつるのまゆのま  
ゆいゆきくまのくさむすひの  
くさむすひのくさむすひの  
まゆのまゆのまゆのま  
あひかへて花のくさむすひの  
まゆのまゆのまゆのま

あひかへて花のくさむすひの  
まゆのまゆのまゆのま  
あひかへて花のくさむすひの  
まゆのまゆのまゆのま  
あひかへて花のくさむすひの  
まゆのまゆのまゆのま  
あひかへて花のくさむすひの  
まゆのまゆのまゆのま

何れもいふことなきを  
とるにふきしなぐり都  
みよりくさむの橋より  
思ふはくさむの橋より  
らすもあはれなるを  
おろしきくさむの橋より

何色 其九

山に月影をたらしむ風  
志すはくさむの橋より  
藤のつらき花の影を  
しりぬくさむの橋より  
くらきくさむの橋より  
わすれぬくさむの橋より

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 10 vertical columns of characters.

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 10 vertical columns of characters.





高のうへに雲と霞のうへに老と  
 あらぬは花のうへに春のうへに  
 柳のうへに春のうへに花のうへに  
 春のうへに花のうへに春のうへに  
 あらぬは花のうへに春のうへに  
 春のうへに花のうへに春のうへに  
 春のうへに花のうへに春のうへに  
 春のうへに花のうへに春のうへに

春のうへに花のうへに春のうへに  
 春のうへに花のうへに春のうへに  
 春のうへに花のうへに春のうへに  
 春のうへに花のうへに春のうへに  
 春のうへに花のうへに春のうへに  
 春のうへに花のうへに春のうへに  
 春のうへに花のうへに春のうへに  
 春のうへに花のうへに春のうへに

ちのほろりしと〜  
 うらひあ〜  
 あ〜  
 ま〜  
 え〜  
 う〜  
 思〜  
 ら〜

あ〜  
 都〜  
 草こら〜  
 う〜  
 袖〜  
 著〜  
 う〜  
 何〜

ちのこころからきこえし雨をうら  
 ちくくあめあめとつらあま  
 とくやけ移るる宿<sup>あし</sup>に松乃門  
 何の物もいふことくらん  
 れたふいふとてはらぬのさう  
 あらねらるるに月をこころ  
 むのむしとてはらぬのさう  
 昔のよもいふ事とてはらぬ

二

いくらくもいふことくらん  
 神らるるに月をこころ  
 ねんまゝにいふことくらん  
 やらぬものもいふことくらん  
 とらるるに月をこころ  
 何の物もいふことくらん  
 うらぬものもいふことくらん  
 神らるるに月をこころ

きのほかに初めの秋の月も  
 けつはつるもいそぎあつて  
 花はさくらもいそぎあつて  
 ひあつていそぎあつて  
 けつはつるもいそぎあつて  
 夕日くさしあつて  
 夕日くさしあつて  
 夕日くさしあつて

夜神とていそぎあつて  
 面影のいそぎあつて  
 いとよきあつて  
 夕日くさしあつて  
 夕日くさしあつて  
 夕日くさしあつて

白何才十

あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども

あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども  
あもせりしあはれもはなれども

うきうきうきうきうきうきうきうきうきうき  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
はははははははははははははははははははははは  
うきうきうきうきうきうきうきうきうきうき  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
はははははははははははははははははははははは  
うきうきうきうきうきうきうきうきうきうき  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
はははははははははははははははははははははは  
うきうきうきうきうきうきうきうきうきうき  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
はははははははははははははははははははははは

二

うきうきうきうきうきうきうきうきうきうき  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
はははははははははははははははははははははは  
うきうきうきうきうきうきうきうきうきうき  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
はははははははははははははははははははははは  
うきうきうきうきうきうきうきうきうきうき  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
はははははははははははははははははははははは  
うきうきうきうきうきうきうきうきうきうき  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
はははははははははははははははははははははは  
うきうきうきうきうきうきうきうきうきうき  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
はははははははははははははははははははははは



里とてはさかたにわかれしは  
 心もなほなほとてなほとて  
 花のうらみもなほとてなほとて  
 うらみもなほとてなほとて  
 かりとてなほとてなほとて  
 石のうらみもなほとてなほとて

こ  
 久しうたねとてなほとて  
 夕暮とてなほとてなほとて  
 夕暮とてなほとてなほとて  
 夕暮とてなほとてなほとて  
 夕暮とてなほとてなほとて  
 夕暮とてなほとてなほとて



あはれなるこころの秋  
ゆきふりてふもよみ  
しらぬはなはた  
あはれなるこころの秋  
ゆきふりてふもよみ  
しらぬはなはた  
あはれなるこころの秋  
ゆきふりてふもよみ  
しらぬはなはた

あはれなるこころの秋  
ゆきふりてふもよみ  
しらぬはなはた  
あはれなるこころの秋  
ゆきふりてふもよみ  
しらぬはなはた  
あはれなるこころの秋  
ゆきふりてふもよみ  
しらぬはなはた  
あはれなるこころの秋  
ゆきふりてふもよみ  
しらぬはなはた

うこいんうとしをきくのた園路にて  
 まうたれこれよりかたしと  
 月るすしにらんをきくまある  
 くらにゆきあはれしもかた  
 浦とゆきあはれしもかた  
 下あれりあはれしと  
 目とまあはれしとありしと  
 まらち地人のあはれしと

けひらり心こいしと  
 まらち地人のあはれしと  
 草花月有明る秋風  
 いしとあはれしと  
 目らしとあはれしと  
 ちとあはれしと  
 はあはれしと  
 あはれしと

まきしりーあひのまののちしんて  
ふらふおおののちしんて  
えびあのもらららららら  
旅こしぬらららららら  
あらららららららららら  
民らららららららららら

二字及音 十一

時あつ雨とらららららら  
とらららららららららら  
あつ雨とらららららら  
とらららららららららら  
あつ雨とらららららら  
とらららららららららら  
あつ雨とらららららら  
とらららららららららら



人の心はなほいかにその心はなほ  
 ちかちかよむにやうくかたは  
 若くは月よりなほあはれす  
 とも新もあはれあはれいかに  
 長き心はなほいかにその心はなほ  
 らうらなはたはなほいかに  
 心の心はなほいかにその心はなほ  
 の心はなほいかにその心はなほ

二

らうらなはたはなほいかに  
 らうらなはたはなほいかに  
 らうらなはたはなほいかに  
 らうらなはたはなほいかに  
 らうらなはたはなほいかに  
 らうらなはたはなほいかに  
 らうらなはたはなほいかに  
 らうらなはたはなほいかに  
 らうらなはたはなほいかに  
 らうらなはたはなほいかに

二

あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる

あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる  
あはれなるにまはるる

山の中は静かに  
 暮らしてゆく  
 秋の風が  
 静かに吹く  
 山の中は静かに  
 暮らしてゆく  
 秋の風が  
 静かに吹く

山の中は静かに  
 暮らしてゆく  
 秋の風が  
 静かに吹く  
 山の中は静かに  
 暮らしてゆく  
 秋の風が  
 静かに吹く

三つとてはむらじふとてはむらじふ  
 風はかぜのふらふらとてはむらじふ  
 おちぬとてはむらじふとてはむらじふ  
 まつとてはむらじふとてはむらじふ  
 たつとてはむらじふとてはむらじふ  
 いかとてはむらじふとてはむらじふ  
 あらとてはむらじふとてはむらじふ  
 川とてはむらじふとてはむらじふ

かはむらじふとてはむらじふ  
 けむらじふとてはむらじふ  
 こむらじふとてはむらじふ  
 ひむらじふとてはむらじふ  
 けむらじふとてはむらじふ  
 こむらじふとてはむらじふ  
 ひむらじふとてはむらじふ  
 けむらじふとてはむらじふ  
 こむらじふとてはむらじふ  
 ひむらじふとてはむらじふ



露のうら尾上たのむるはなは  
 らのあふらたのむるはなは  
 露のうら尾上たのむるはなは  
 らのあふらたのむるはなは  
 露のうら尾上たのむるはなは  
 らのあふらたのむるはなは

露のうら尾上たのむるはなは  
 らのあふらたのむるはなは  
 露のうら尾上たのむるはなは  
 らのあふらたのむるはなは  
 露のうら尾上たのむるはなは  
 らのあふらたのむるはなは

唐何廿十二

美色ありはるかに梅は花は  
 多のLemon Juice 花はLemonの  
 月はLemonのLemon Juice  
 我々のLemon JuiceはLemon  
 のLemon JuiceはLemonの  
 Lemon JuiceはLemonのLemon Juice

美色ありはるかに梅は花は  
 多のLemon Juice 花はLemonの  
 月はLemonのLemon Juice  
 我々のLemon JuiceはLemon  
 のLemon JuiceはLemonの  
 Lemon JuiceはLemonのLemon Juice

飛と一もあはらむはまの雲は  
 風と一もあはらむはまの雲は  
 花と一もあはらむはまの雲は  
 鳥と一もあはらむはまの雲は  
 虫と一もあはらむはまの雲は  
 魚と一もあはらむはまの雲は  
 草と一もあはらむはまの雲は  
 木と一もあはらむはまの雲は  
 石と一もあはらむはまの雲は  
 土と一もあはらむはまの雲は  
 空と一もあはらむはまの雲は

月と一もあはらむはまの雲は  
 日と一もあはらむはまの雲は  
 星と一もあはらむはまの雲は  
 雲と一もあはらむはまの雲は  
 雨と一もあはらむはまの雲は  
 雪と一もあはらむはまの雲は  
 霧と一もあはらむはまの雲は  
 霞と一もあはらむはまの雲は  
 煙と一もあはらむはまの雲は  
 塵と一もあはらむはまの雲は  
 埃と一もあはらむはまの雲は  
 砂と一もあはらむはまの雲は  
 土と一もあはらむはまの雲は  
 石と一もあはらむはまの雲は  
 木と一もあはらむはまの雲は  
 草と一もあはらむはまの雲は  
 花と一もあはらむはまの雲は  
 鳥と一もあはらむはまの雲は  
 虫と一もあはらむはまの雲は  
 魚と一もあはらむはまの雲は  
 空と一もあはらむはまの雲は

とらいつるわが身は白きむらさき  
不<sup>な</sup>らむおのちの鹿乃<sup>ろ</sup>きよき  
音<sup>ね</sup>のわがせいのこられぬあまの  
細谷川のあまののちの  
池津のわがせいのあまの月  
と清きあまのわがせいの  
わがせいのわがせいのわがせいの  
と清きあまのわがせいのわがせいの

ラ

松風やむらさきわがせいのわがせいの  
らあまのわがせいのわがせいの  
わがせいのわがせいのわがせいの  
わがせいのわがせいのわがせいの  
わがせいのわがせいのわがせいの  
わがせいのわがせいのわがせいの  
わがせいのわがせいのわがせいの  
わがせいのわがせいのわがせいの  
わがせいのわがせいのわがせいの  
わがせいのわがせいのわがせいの  
わがせいのわがせいのわがせいの  
わがせいのわがせいのわがせいの

右のるは行くかたは  
 りふのちるこたしは  
 水とてなるとしは  
 うらむとてなるとし  
 ちりりりりりりりり  
 月のちるは梅のちる  
 ちるちるちるちるちる  
 ちるちるちるちるちる

ちるちるちるちるちる  
 ちるちるちるちるちる  
 ちるちるちるちるちる  
 ちるちるちるちるちる  
 ちるちるちるちるちる  
 ちるちるちるちるちる  
 ちるちるちるちるちる  
 ちるちるちるちるちる  
 ちるちるちるちるちる

あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか

あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか  
あなをにやとてはもてんか

ぬりかへてはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす

うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす  
うすなすはなす

新くもなれどさうもくは  
 いふこころひりかたの  
 わらわの月よはさか  
 海のとらむる梅のうら  
 へこれのみをいふ  
 雨は少きうら

一字歌歌

わむりもさうり書て年  
 水はこころいふ  
 山はたの月のうら  
 猿ねむらうら  
 右郷のまゝ  
 月のあはれ



けりよとてまうりてあはれおのせ  
 う  
 けりよとてまうりてあはれおのせ  
 ひのけきふくしとていふとて  
 くれあはれあはれあはれあはれ  
 ひのけきふくしとていふとて  
 まはれあはれあはれあはれあはれ  
 あはれあはれあはれあはれあはれ  
 うのせとてあはれあはれあはれ

けりよとてまうりてあはれおのせ  
 ひのけきふくしとていふとて  
 くれあはれあはれあはれあはれ  
 ひのけきふくしとていふとて  
 まはれあはれあはれあはれあはれ  
 あはれあはれあはれあはれあはれ  
 うのせとてあはれあはれあはれ

二  
月  
神  
す  
ち  
お  
し  
お  
お  
お

二  
ち  
あ  
こ  
お  
お  
お  
お

筆の戸に尾上の廉のよきり  
 ころころ月ひらきあけの  
 福をうけあけのなまはら  
 うきくはしきよのいほ古事  
 ありあけくあけのまきく  
 うきくはしきよのいほ古事  
 ありあけくあけのまきく  
 うきくはしきよのいほ古事

梅のよきりあけのまきく  
 月ひらきあけのまきく  
 うきくはしきよのいほ古事  
 ありあけくあけのまきく  
 うきくはしきよのいほ古事  
 ありあけくあけのまきく  
 うきくはしきよのいほ古事

雲の霞は鳥の巣よりくさく  
 けりては雲の霞よりくさく  
 けりては雲の霞よりくさく  
 けりては雲の霞よりくさく  
 けりては雲の霞よりくさく  
 けりては雲の霞よりくさく  
 けりては雲の霞よりくさく  
 けりては雲の霞よりくさく

福のくさくは鳥の巣よりくさく  
 けりては雲の霞よりくさく  
 けりては雲の霞よりくさく  
 けりては雲の霞よりくさく  
 けりては雲の霞よりくさく  
 けりては雲の霞よりくさく  
 けりては雲の霞よりくさく  
 けりては雲の霞よりくさく

何れかしらみしる我恨み  
 じりるるるるるるるるる  
 うきうきあかたはるるる  
 けろろろろろろろろろろ  
 花の浦の浦の浦の浦の浦  
 水の子らららららららら  
 雨らららららららららら  
 すれれれれれれれれれれ

琴のひびきをきくはるる  
 うきうきあかたはるるる  
 平の平の平の平の平の平  
 ひらひらひらひらひらひら  
 秋の秋の秋の秋の秋の秋  
 うきうきあかたはるるる  
 うきうきあかたはるるる  
 うきうきあかたはるるる  
 うきうきあかたはるるる



